

情報伝達手段の多様化

災害発生時

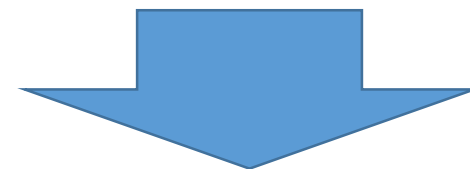
緊急事態が発生していることの気づきが重要

災害情報伝達手段

防災行政無線（防災スピーカ）
※屋内まで聞こえにくい



情報伝達手段の多様化を推進



緊急速報メール、LINE、Twitter の活用

課題

- 情報伝達手段の増加により入力時間も増加
- 携帯電話やスマートフォンが必要

災害情報一斉配信システムを充実

令和2年4月 災害情報一斉配信システムを導入

〔 災害情報を即時に一斉発信
多言語（英語・中国語・韓国語）対応 〕

4月 Yahoo! 防災速報アプリ

災害多言語支援センターホームページを追加

5月 ケーブルテレビ（テロップ、防災情報サービス）を追加

今後の取組

7月13日 大阪ガス(株)と協定締結

8月19日から 大阪ガス警報器（新商品）への一斉配信対応

※ 携帯電話等をお持ちでない方や屋内への情報伝達を強化